

元沖縄県医師会長 稲富洋明先生を偲んで



故 稲富 洋明 先生の遺影

敬愛する稲富洋明先生が9月10日、急性大動脈解離（解離性大動脈瘤）のため急逝なさいました。

稲富洋明先生がお亡くなりになった時の様子を、民子夫人と御子息の仁先生が話してくださいました。

9月8日の金曜日までは普段通り糸満晴明病院に出勤され、土曜日には大好きなパチンコをしていた。9月10日 日曜日、20時30分ごろ夕食を摂るため手を洗い、数歩離れたテーブルに歩を進めている時、急に倒れたそうです。救急車で沖縄協同病院に搬送され、救命処置がとられました。急性大動脈解離のため、81歳の生涯を閉じられました。

手元に民子夫人がお書きになった会葬者への礼状があります。その中から一部を紹介したいと思います。

『臉をとじれば白衣姿が浮かんでまいります。医者として開業し、長きにわたり患者様と真摯に向かい合ってきた夫。少し短気なところもありましたが、心根は温かく、とても優しい人でした。いくつになっても子を案じ、お盆の時期に孫が帰省すると目を細めて喜んでいました。夫夫婦の思い出もたくさんあります。休みが

とれると海外旅行によく出かけました。異国の文化や景色に触れ、一緒に笑って驚いて…喜びはもちろん、悲しみを共に分かち合える相手が夫でよかったと感謝するばかりです』

通夜に参りますと、御遺体のそばの祭壇には、慈愛に満ちた稲富先生の遺影が飾られていました。慈悲深いお釈迦さまに似た優しいまなざしでした。私は遺影を見ながら20年間の先生との交流を思い出していました。

所属する地区医師会や専攻分野が異なるものの、沖縄県医師会員の一人として、稲富先生の慈愛に満ちた優しい顔立ちと所作を遠くから見えていました。ちょうど20年前の1997年のことです。中国の「長江の旅」に誘いの電話をしました。先生とは前年の1996年ヨーロッパ旅行の際、機内で御一緒しました。那覇空港からチャーター便でハンガリーのブダペスト経由で各地に向かう旅でした。稲富先生と民子夫人はオランダ方面、私たち夫婦はブダペストから、トルコ、ギリシャ方面へと向かいました。帰路もブダペストで合流、同じ飛行機で那覇に向かいましたが、そのときはすれ違う機内で軽く会釈をただけでした。

稲富先生は当時すでに沖縄県医師会副会長の要職に就かれていましたが、先生と旅行を御一

緒できたらと考えた私が「長江の旅」に誘ったのです。長江は数年後にはダム建設のため流域の美しい景色が水没すると言われていました。

子育てが終わった後の楽しみは海外旅行でした。

長江の旅の翌年（1998年）、精神文明にひかれるように訪ねたのがインドです。その時迷わず、稲富先生を旅行にお誘いしました。稲富先生は、精神・神経科を標榜して病院を設立し、日頃から心の病に向き合っただけに、旅行に同行して下さると思ったからです。

ネパール観光の後、インドではベナレスのガンジス河やサルナートを訪問しました。年間10万體、そのうち3分の1近くが半生焼死体の状態で河に流されるといわれるガンジス河、その河岸で沐浴する人びと、瞑想する苦行者、道路わきで物乞いするレプラ患者等に衝撃を受けました。サルナートでは釈迦が2,500年前その樹の下で覚りを開いたといわれる菩提樹の末裔に遭遇、菩提樹の一葉を失敬してきました。

その後の数年、稲富先生御夫妻は、ヨーロッパ方面を旅行し、私達はインドのダージリンやカナディアン・ロッキー、ナイアガラ方面に旅行しました。

次に稲富先生御夫妻と旅行したのは2002年のスリランカでした。沖縄からスリランカへのツアーはこれが最初だったと思います。数多くの仏教遺跡や手つかずの自然を満喫しました。民子夫人は絵画のプロであるだけに旅行の際はカメラを手にし、綺麗な写真を撮っていました。ネパールでの遊覧飛行の際、機内から撮ったヒマラヤの写真やスリランカのシーギリア・ロックで岩壁に描かれた女性の写真は沖縄県医師会報の表紙を飾りました。

翌2003年、再度インド旅行にお誘いしました。第二次世界大戦で亡くなった戦没者を慰霊するため、釈迦ゆかりの菩提樹の分け木をもらい受けるためです。2,300年ぶりに菩提樹の分け木が海外に出るとい歴史的な出来事で、菩提樹贈呈式の模様はインドやスリランカの新聞にも掲載されました。

10数年前から、先生は変形性膝関節症のため杖をつけていましたが、その後も一緒に祇園精舎や釈迦涅槃の地・クシナガラなどインド仏

跡の旅行をしました。

稲富先生は南部地区医師会や沖縄県医師会で長年御活躍なさいました。沖縄県医師会では理事8年、副会長14年、続いて2002年から4年間会長に就任し、その間沖縄県内の各種団体の役員や委員をなされ、また沖縄県医療審議会会長のほか九州医師会連合会の会長の要職を歴任なさいました。医師会における先生の御功績は皆のよく知るところです。その功績に対し、日本医師会最高優功賞、旭日小授章、沖縄県功労章を授与されています。

12年ほど前に変形性膝関節症の手術をされた後、しばらく杖なしで歩いておられましたが、その後パーキンソン病の症状が出現し、杖を手放すことができなくなりました。

それでも、毎日病院に出勤し、慰霊の日には杖をつきながら毎年魂魄の塔に隣接した沖縄菩提樹苑を訪れていました。

今年の2月、私が糸満清明病院を訪ねた時には、歩行器を用いていました。歩行が困難なわりには言葉はしっかりしていて、昨年の沖縄県医師会長選挙など医師会の様子を私から訊いていました。その際、自分の病状を話し、「近い将来、(介護)施設に入らなければならない」と話していました。私は「施設に入らなくても、病院の隣にある先生のお父様が住まわれていた立派な建物を利用し、自分の病院の職員に看てもらいたいと思います」と言いました。病院の敷地内には、先生のお父様が住まわれていた南シナ海を一望できる立派な建物があるからです。

先生は「すぐ下には保育園があるので、妙なのがウロウロしてはいけない」と周囲に対する気遣いを優先させる言葉が返ってきました。

「これから先、家にいると、うち（民子夫人のこと）のが面倒を見ることになる。そうなる、うちのが大変で行動が制約され、何もできなくなる。だから、僕は先に逝くよ」と話しておられました。

今年の6月23日慰霊の日には、沖縄菩提樹苑に民子夫人と一緒においでになりました。稲富先生は「うちのが顎の病気（注：顎下腺の唾石症）の手術で近く入院するので、その間施設に入らなければならない」と話していましたが、私はすかさず、「数日間なら自分の病院で見て

もらった方がいいですよ」と言いました。

民子夫人は県内の絵画サークル「ペンドル」の会長をなされ、太平洋美術会、沖縄女流美術家協会、沖展の会員として活躍され、那覇の桜坂界隈など古き良き時代の風景を多く描いています。その他いくつものサークル活動を積極的になさっているのを先生は優しく見守っておられました。それだけに療養生活で民子夫人の行動が制約されることを最も危惧しておられたのでしょう。体が不自由になった後も毎日病院に出勤なさったのは、その間、民子夫人が自由に活動できるよう配慮したためと思われまます。

最後に先生のお声を聴いたのは8月のはじめでした。私が電話で「お元気ですか？」と訊いたのに対し「声だけは元気だよ」と話しておられました。慈父のような稲富先生の病状はいつも気がかりでした。

お釈迦さまは、道を説いた後、80歳で生涯を終えました。稲富先生は81歳でした。遺影のまなざしはお釈迦様と同じ慈愛に満ちたまなざしです。通夜の日、遺影をみながら御子息の仁先生に、「お父さん（洋明先生）には負けるね」と語りかけると、仁先生は、はにかみながら頷いていました。

稲富先生、長い間の御指導有難うございました。先生と語り合った日々を思い出しています。糸満清明病院会長室には先生の遺影が飾られています。病める人と真摯に向き合ってこられた稲富先生の教えは、病院の指針として御子息の仁先生や病院の職員によって末長く語り継がれていくことでしょう。

菩提樹苑にも先生のお名前が刻銘されています。菩提樹苑を訪問するたび先生の慈愛に満ちたお顔と御功績を思い出すごうです。

謹んで稲富先生の御冥福をお祈り申し上げます。近いうちに、また一緒に語り合ひましょう。

(2017年9月20日記)

沖縄県医師会代議員会議長
長嶺胃腸科内科外科医院
長嶺 信夫

【稲富 洋明先生の略歴】

昭和 37 年 3 月 山口県立医科大学医学部卒業
昭和 39 年 4 月 山口県立医科大学医学部精神神経病教室助手
昭和 45 年 7 月 山口大学医学部精神神経医学講座講師
昭和 45 年 11 月 田崎病院
昭和 46 年 7 月 北九州古賀病院
昭和 49 年 4 月 糸満清明病院院長就任
昭和 49 年 7 月 医療法人晴明会理事長就任(院長兼任)
平成 25 年 4 月 医療法人晴明会会長就任
昭和 62 年 4 月 社会福祉法人志紋会みなみの里囑託医

〈 医師会関係 〉

昭和 51 年 4 月 南部地区医師会幹事 (任意団体)
昭和 55 年 4 月 沖縄県医師会理事
昭和 59 年 4 月 南部地区医師会副会長
昭和 63 年 4 月 南部地区医師会理事
昭和 63 年 4 月 沖縄県医師会副会長
平成 2 年 6 月 日本医師会病院委員会委員
平成 4 年 4 月 南部地区医師会副会長
平成 6 年 4 月 日本医師会代議員
平成 7 年 4 月 沖縄県医師会精神科学会会長
平成 10 年 4 月 南部地区医師会理事
平成 14 年 4 月 沖縄県医師会会長
平成 14 年 4 月 日本医師会理事
平成 18 年 4 月 南部地区医師会顧問
平成 18 年 4 月 沖縄県医師会顧問

〈 賞 罰 〉

平成 元年 11 月 財団法人沖縄県精神保健協会会長賞
平成 2 年 12 月 沖縄県医事功労者知事表彰
平成 6 年 10 月 厚生大臣表彰
平成 9 年 11 月 厚生労働大臣表彰
平成 15 年 11 月 日本医師会優功賞 (代議員在位 10 年)
平成 19 年 11 月 日本医師会最高優功賞
平成 21 年 4 月 叙勲 旭日小綬章
平成 27 年 11 月 沖縄県功労章